町並みにおけるあかりによる景観形成
～会津三島町におけるあかりと物語サインの提案～

A2201208　桑島美穂

研究の背景および概要

奥会津に位置する三島町は、美しい景観、桐や編み組細工などの生活工芸、国の重要無形民俗文化財に指定されている「サイノカミ」などの民俗行事が評価され、2012 年に「日本で最も美しい村」連合に加盟した。その三島町では、「サイノカミ」をはじめとした、火を扱うイベントが今でも継承されている。それらの火は迫力のあるものであったり、綺麗なものであったりと、見る者を魅了する要素を持っている。そこで、そういった火を思わせるような、人々の心を惹き付けるあかりの景観を考え、更なる美しい村になるようにこのテーマを設定した。あかりを使い景観をつくろうと考えたのは、先日学内で行われた「鶴ヶ城ライトアップセミナー」で照明デザイナーの岩井達弥さんの話を聞き、照明に興味を持ったことが主な理由である。また、同じく「日本で最も美しい村」連合に加盟している山形県の大蔵村にある肘折温泉郷という温泉地では、「ひじおりの灯」というアートプロジェクトの事例があり、あかりの持つ可能性を提案したいと思った。

研究の目的

三島町宮下地区にあかりを設置し、新たな美しい景観をつくり出す。また、あかりの灯らない昼間は、看板としての機能を持つようにする。看板には、宮下地区の歴史や行事、昔起こった大火等について記し、宮下地区について知ってもらう。

研究のプロセス

●研究方法

●現地調査

三島町の現地調査をするため、夏休みには調査合宿を行った。三島町の全ての地区に行き、集落や神社や蔵等の様々なものを調査した。間方地区を調査した際には、編み組細工が作られている「工房間方」で話を聞くことができた。

宮下ダム

ダム建設で殉職した方々の慰霊碑

桧原地区の蔵

川井地区の木造の蔵

宮下型住宅

「工房間方」

●ワークショップ

調査合宿の中で、子供を対象とした「子供たちと’みしまの昔話’ワークショップ」、大人を対象とした「三島町の魅力を考えるワークショップ」の二つを行った。「子供たちと’みしまの昔話’ワークショップ」では、「かしゃねこ伝説」本来の化け猫としてではなく、やさしいかしゃねこに変えての紙芝居、かしゃねこのお面づくり、高姫伝説にちなみ、青と緑のLEDライトで平家蛍と源氏蛍を表現した「みしまホタル」を子供たちと一緒に行い、交流を深めることができた。

「三島町の魅力を考えるワークショップ」では、あらかじめ用意しておいたテーマカードに各自記入してもらい、その後全員でディスカッションをすることで、三島町の魅力を改めて知る良い機会となった。

また、三島町役場に提出するために、ワークショップで記入してもらったテーマカードを整理し、今回の調査における報告書の作成を行った。

「かしゃねこ伝説」の紙芝居

かしゃねこのお面づくり

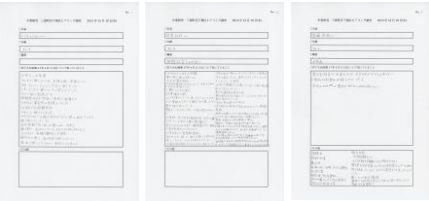
LED のホタルづくり

LED のホタルが止まっている

テーマカードの記入

●ヒアリング調査

あかりの機能となる看板に記すための、宮下大火についてのヒアリング調査を行った。宮下大火は昭和 17 年 4 月 11 日に起こったため、現在大火を経験している人はとても少なかったが、数名の方に話を聞くことができた。大火について詳しく覚えており、その日の天気や、火災の情景等、復興にいたるまでを細かく知ることができた。


ヒアリング用紙

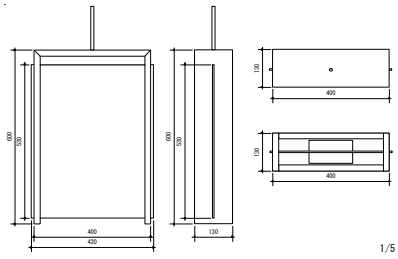
ヒアリングの様子

1 月 15 日に行われたサイノカミ

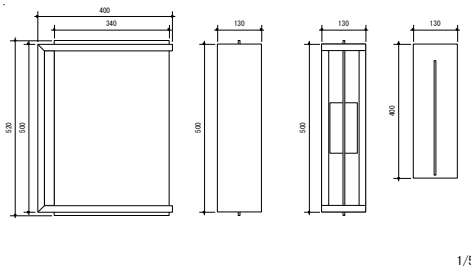
提案

あかりによる景観づくりで、連続性を持たせるため、あかりの設置場所を狭い範囲で限定する。設置場所は、三島町の主要な建物が多くあり、中心とも言える宮下地区に設定する。

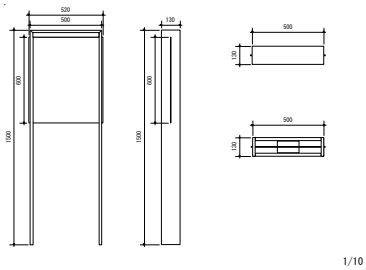
三島町は桐の里と呼ばれ、象徴ともされているため、あかりには桐を使用する。あかりが灯らない昼間は、看板としての機能を持つようにする。看板に記す内容としては、宮下地区の成り立ちや地名の由来等の地区の歴史、宮下大火について、宮下型住宅等である。それらの文章や写真は、転写シートを用いてアクリル板に転写させる。アクリル板をLEDで照らすことにより、アクリル板のエッジが発光し、幻想的に見えるようになる。あかりは、吊るすもの、建物の外壁に取り付けるもの、ポケットパーク等に立てるものの3つのタイプにする。



吊るすタイプ



外壁に取り付けるタイプ



立てるタイプ

考察

ワークショップやヒアリング調査により、町民との交流を深めることができた。皆優しく、気の良い人ばかりで、町の温かさが伝わってきた。また、調査を行ったことで、町民でも町の歴史や伝承について詳しく知らないということがわかった。宮下大火が起こらなければ、現在の宮下型住宅がある町並みは無かったのかも知れない。歴史を知り、理解することで新たな発見につながることを今回の研究で感じた。